

2020年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【北九州市】

学校名【北九州市立 則松中学校】

1 実践テーマ	I・III
2 実施対象者 (学年・人数)	則松中学校 ・ 1年生 141名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科等名 ()</p> <p>② 行事名 ()</p> <p>③ その他 (○)</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ()</p> <p>② その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	<p>○ リオパラリンピック車いすテニス日本代表 二條実穂氏の講演を聞いたり、競技用車いすの体験活動をしたりすることにより、オリンピック・パラリンピック競技に興味を持たせ、東京2020大会に向けた機運を醸成する。</p> <p>○ 車いすを使って生活する苦労や工夫を知るとともに、車いす体験を通して、障がいをもった方たちとの共生社会について考えさせる。</p>
5 取組内容	<p>○ 車いすテニス日本代表二條選手の講演と体験学習</p> <ul style="list-style-type: none"> まず車いす生活となった経緯、車いすテニスの日本代表としてリオパラリンピックに出場するまでの努力や心情の変化について講演をいただいた。 次に、リオパラリンピック大会の現地や開会式の様子、リオパラリンピックダブルス4位なるまでの苦労、チームとして助け合うことの大切さ、障がいを乗り越え活躍していくための努力について教えていただいた。 車いすの体験学習では、参加生徒全員が競技用車いすに乗車し、車いすの操作方法を学んだ。その後、代表生徒や教職員と車いすテニスのゲームを実演し、二條選手のプレーに参加生徒の大歓声上がり、大変盛り上がった。
6 主な成果	<p>○ 車いすテニスの体験を通して、生徒は競技の難しさを実感するとともに、障がいをもちながらも巧みに車いすを操作する二條選手の凄さを実感することができた。</p>

	<p>○ 二條選手からたくさんの方の事を教えていただいた感謝の気持ちを代表生徒からお礼の言葉を述べ、二條選手からメッセージを記入した色紙をいただいた。</p> <p>○ 障がいをもった選手への尊敬の念をもち、その心情の強さを感じとることで、自らの生き方について考え、生徒自身の目標へとつなげることができた。</p>
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>○ 生徒が体験できる場面や講師の動きを間近に見る場面を取り入れ、ハンディキャップのある人の大変さを感じるとともに、障がいがありながらもアスリートとして活躍する選手の凄さを実感できるよう、場の展開を工夫した。</p> <p>○ 講演では、リオパラリンピック4位までの努力の様子や、ペアと一丸となって取り組む姿勢についての苦労話で、生徒たちにスポーツを通して助け合う心や努力の大切さ、障がいに負けない心の強さを実感してもらうように配慮した。</p> <p>○ 二條実穂氏の強い要望から、普段乗る機会のない競技用車いすを10台準備し、参加生徒全員に乗車体験させることができた。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>○ 本年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、実施が危ぶまれたが、二條選手側と綿密に打合せを行うとともに、校内での感染防止対策を徹底することで、本事業を実施することができた。</p> <p>○ 二條実穂氏は、今後も可能な限り本市の小中学校に訪問して、講演会や車いす体験学習を子どもたちと行いたいと切望されている。</p> <p>○ 二條実穂氏は、全国各地において講演活動を行っている。今後とも、直接メールや電話等で講演依頼をすることができるので、推進校での活用が大きいと期待される。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>○ 昨年度に引き続き、オリ・パラ推進校として取組を重ねる度に、生徒のオリンピック・パラリンピックへの興味・関心が高まってきている。今後も、以下の重点目標を達成すべく、様々な取組を通して次年度に延期された東京2020大会への機運を醸成していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツ及びオリ・パラの意義や歴史の理解 ・ 海外からの客人をもてなすボランティア精神の育成 ・ インクルーシブな社会の構築 ・ 日本及び世界の文化・伝統の理解 ・ スポーツへの興味・関心の向上 ・ SDGsの視点に立った、国際理解・環境教育の実践 ・ 大会開催後も、引き続き取組を推進していくことで、東京2020大会後に価値あるレガシーを残していきたいと考えている。